

文化財石垣保存技術協議会会報

平成30年（2018） 第20号 -平成30年度事業報告-

技能者養成研修（講義）・実地研修1

日時 平成30年7月14日（土）～16日（月・祝）
場所 日本城郭研究センター（兵庫県姫路市）
受講者 技能会員10名、技術・研究会員8名、一般
会員5名、（講師10名、事務局1名）

研修内容

日時	講習内容	講師
7/14 (土)	これからの文化財保護と石垣整備	市原 富士夫 (文化庁文化財部文化財調査官)
	石垣の安定性評価のための工学的調査事例について	山中 稔 (香川大学創造工学部 教授)
7/15 (日)	石垣カルテの方法と課題	香西 真紀子 (技術・研究会員)
	延岡城における石垣保全について	藤川 直也 (宮崎県延岡市都市計画課)
	小牧山城跡の石垣 (公開講座)	小野 友記子 (小牧市教育委員会)
	東国の野面積み石垣 (公開講座)	宮里 学 (山梨県埋蔵文化財センター)
7/16 (月)	野面積み石垣の見方 (姫路城跡の現地講座)	水野 賀道 (技能会員) 多田 暢久 (姫路市立城郭研究室)
	総括討論 研修のまとめ	
	石垣普請の組織と技術 【総会記念講演兼】	木越 隆三 (石川県金沢城研究所所長)

会員の声

奥山 聖治 (技能会員)

1日目の講義で香川大学の山中先生より、丸亀城の新たな石垣崩落についての報告があった。7月の大雨によるものと考えられるようである。知り合いの石工が携わっている城でもあり、現場の者としては決して他人事ではない怖い現実である。参加者全員が肝を冷やすような報告であった。

宇和島城においても、近年大雨による石垣やその基礎部分の地山の崩落があり、以前文化庁の方に質問したことがあった。「石垣工事も土木工事なので、まず第一に水対策を行うべきではないだろうか？」かつては郭が建ち並び、屋根が建物によって石垣の外側に排されている雨水が、現在では石垣背面に浸入している可能性が大である。そのことの対策無しに、石垣修復することへの疑問をぶつけてみたのだが、明確な返答はなかったように思う。近年の日本の集中豪雨を考えると、同様の崩落が相次ぐのではないかと危惧する。

一体、文石協としては、どんな考えを持っているのだろうか？協議会として、文化庁に提案できることはないのだろうか？現場からの発想で様々な問題を解決できる可能性もあるのではないかと？下から上へフィードバックできるシステムがあれば、より良い文化財石垣のために、誰もがもっと力を発揮できるのではないかと考えさせられた研修会であった。



研修の様子



研修の様子（姫路城跡の現地講座）

◇平成30年度総会が開催されました

- 日時 平成30年7月16日(月・祝)
 場所 日本城郭研究センター大会議室
 出席 評議員9名、技能会員33名、技術・研究会員29名、一般会員8名、賛助会員4名、事務局2名
 来賓 山下史朗 兵庫県教育委員会文化財課課長
 名村哲哉 姫路市教育委員会教育次長
 記念講演 石垣普請の組織と技術
 木越隆三(石川県金沢城調査研究所所長)
 主な議事 (1) 役員の変更について
 (2) 評議員の推薦について
 (3) 平成29年度事業報告、決算報告、監査報告
 (4) 平成30年度事業計画、予算案

平成29年度研修終了証書授与者

技能者養成研修(11名)

小野 貴義	(有)小野石材店	森岡 良二	中村石材工業(株)
大江 政宏	大江石政石材店	山口 隆徳	(株)山口石材
河本 浩次	河本石材	山口 猛	中村石材工業(株)
浜田 達彦	中村石材工業(株)	與那嶺優也	(株)小林石材工業
堀 貴喜	城南造園(株)	和田 宇司	和田石材建設(株)
峯田 喜久	峯田石材		



総会の様子



研修終了証書授与



記念講演 木越隆三氏(石川県金沢城調査研究所所長)

■文化財石垣保存技術協議会 評議員・役員

- 評議員**
 木越隆三 石川県金沢城調査研究所所長
 北垣聡一郎 石川県金沢城調査研究所名所所長
 北野博司 東北芸術工科大学教授
 千田嘉博 奈良大学教授
 高瀬要一 財団法人琴ノ浦温山荘園理事長
 田中哲雄 姫路市立日本城郭研究センター名誉館長
 西形達明 関西地盤環境研究センター顧問
 麓 和善 名古屋工業大学大学院教授
 三浦正幸 三浦伝統建築文化研究室
 宮武正登 国立大学法人佐賀大学全学教育機構教授

役員

- | | | |
|-----|------|---------|
| 会長 | 松本勝蔭 | 技能会員 |
| 副会長 | 會澤敏夫 | 技能会員 |
| | 和田行雄 | 技能会員 |
| 監査役 | 荻本 久 | 技能会員 |
| | 奥村信一 | 技術・研究会員 |
| 幹事 | 栗田純徳 | 技能会員 |
| | 上月保道 | 技能会員 |
| | 佐藤哲夫 | 技能会員 |
| | 白石 建 | 技術・研究会員 |
| | 西川禎亮 | 技能会員 |
| | 西田勝計 | 技術・研究会員 |
| | 橋本 孝 | 技術・研究会員 |
| | 矢野和之 | 技術・研究会員 |

オブザーバー

- | | |
|-------|---------|
| 市川浩文 | 技術・研究会員 |
| 楠 寛輝 | 技術・研究会員 |
| 富田和気夫 | 技術・研究会員 |
| 宮里 学 | 技術・研究会員 |

事務局

- | | |
|-------|------|
| 事務局長 | 植原正則 |
| 副事務局長 | 多田暢久 |

技能者養成研修(実技)・実地研修2

日時 平成30年9月14日(金)～17日(月・祝)
場所 特別史跡熊本城跡・蟹江石材採石場
(熊本県熊本市)
受講生 技能会員14名、技術・研究会員7名
(講師14名、事務局1名)

内容
技能会員:鍛冶による道具製作、石材加工
技術・研究会員:石材調査、記録作成



研修の様子

受講者の声

坂井 清春 (技術・研究会員)

鍛冶による道具製作や石材加工を目指した技能者養成研修に、今回初めて受講させて頂いた。初日の熊本城石材置き場での石材調査研修では、石垣石材に残る未割矢穴を実測し、その後バルサ材を削り出して未割矢穴に適した矢を復元する作業を行った。当初は工作気分で楽しく製作していたが、実際にバルサ材を加工していくと実測時よりも矢穴を観察することになり、石を効率よく割るにはどのような矢が適しているのか、自分なりにじっくりと考えるきっかけとなった。また技能会員にとっては、2日目以降もこの復元したバルサ材の矢と、自ら鍛冶にて製作する矢を常に見比べて試行錯誤を繰り返すことになり、非常に重要かつ不可欠な作業だと感じた。

2日目以降は採石場にて、実際に鍛冶による道具製作や石材加工を行う研修であった。鍛冶では一心不乱に鎚を振るしつつ、鋼材の微妙な変化を感じ取ろうと五感を研ぎ澄ませる様子に圧倒された。また、多くの技能者が集まって、石材加工する様子は圧巻で、400年前の石垣普請時にも同じような光景であったのではないかと考えた。

特に目を引いたのは、石工の技を伝える様である。短期間ではあるものの、できる限りその技を教えようとする講師陣と、貪欲に少しでも多く吸収しようとする受講者の、現場での実際のやりとりや、それぞれの熱い思いが強く印象に残った。

今回は技能会員による技能者を養成するための研修ではあるものの、その技のあり方を客観的に捉えるという点で、技術研究会員の私にとっても得がたい貴重な経験となった。広く一般に石垣普請に係る技能や技術を理解してもらうには、どのようにしたらよいのか、改めて考えるきっかけとなった。今回の研修で垣間見た技能者の視点は、現在私が担当している石垣修理や文化財調査はもとより、石垣修理に関連する普及啓発にも生かせる内容であった。地元では、技術や技能の何が凄いのか、伝えることがどれほど重要かを、上手く解りやすく伝えられたらと思う。

記録保存事業 (小豆島)

日時 平成30年4月21日(土)・22日(日)
場所 香川県小豆島町福田地内(旧福田小学校校庭)
参加者 技能会員12名、技術・研究会員9名、事務局1名
協力 小豆島町(会場提供、撮影機材貸与等)
内容 伝統技法による石材製作の映像記録



作業の様子



石材の製作

『日本の技体験フェア2018～文化財を 守り続けてきた匠の技～』への参加

日時 平成30年10月27日(土)・28日(日)
場所 南熱海マリンホール(静岡県熱海市)
参加者 技能会員1名、事務局2名、
内容 協議会の活動紹介(パネル展示)



文石協の展示

■新規加入会員紹介(平成30年7月16日役員会審査)

会員区分	氏名	所属
技能会員	浦川 末友	中尾石工
〃	奥山星太郎	橘造園(株)
〃	中尾 義輝	中尾石工
〃	平川 和人	
〃	平川 敏正	
〃	藤倉 純二	橘造園(株)
技術・研究会員	河本 愛輝	滋賀県立大学大学院
〃	角南 宗彦	アイサワ工業(株)
〃	松原 岳志	名古屋市役所
一般会員	大淵 博文	(株)修復技術システム
〃	川邊 和彦	〃
〃	佐々木 聖	(株)タックエンジニアリング
〃	田淵 亘	(有)豊島屋

■入会手続き

入会申請の用紙は協議会のホームページから取り出すことができます。入会申請に必要な事項を記入のうえ、下記の事務局へご送付ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費(4月～翌3月)をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■事務局からのお知らせ

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(平成30年10月5日現在)

技能会員	165名
技術・研究会員	110名
一般会員	41名
賛助会員	22法人
評議員	10名
合計	348名(法人含む)

発行年月日 平成30(2018)年10月10日
編集・発行 文化財石垣保存技術協議会
事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258
 日本城郭研究センター内
TEL 079-289-4877 **FAX** 079-289-4890